

富山労働局発表
令和5年4月28日（金）

令和5年4月28日

【照会先】富山労働局 労働基準部 健康安全課

課長 浅野 浩幸

課長補佐 佐伯 和文

電話 076-432-2731

報道関係者 各位

令和5年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」について

～職場での熱中症により全国で毎年約20人が亡くなり、
約600人が4日以上仕事を休んでいます。～

富山労働局（局長 吉岡 勝利）は、職場における熱中症^{※1} 予防対策を徹底するため、5月から9月まで（7月は重点取組期間）、「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を実施します。

1 キャンペーンの概要

厚生労働省および富山労働局は、労働災害防止団体などと連携し、事業場への熱中症予防に関する周知・啓発を行います。

期間中、事業者は①暑さ指数（WBGT）の把握とその値に応じた熱中症予防対策を実施すること、②作業を管理する者及び労働者に対してあらかじめ労働衛生教育を行うこと、③衛生管理者などを中心に事業場としての管理体制を整え、発症時・緊急時の措置を確認し、周知することなど、重点的な対策の徹底を図ることを呼びかけます。

2 令和4年の職場における熱中症による死傷災害の発生状況（速報）

富山県内の発生状況は、休業4日以上の死傷者数は8人で、うち死亡者は1人となっています。業種別では、製造業が4人、農業、建設業、通信業、社会福祉施設で各1人被災しました。

全国的には休業4日以上の死傷者数は805人、うち死亡者は28人となっています。業種別の死傷者数では、全体の約4割が建設業と製造業で発生しています。死亡者数は建設業、警備業の順に多く、多くの事例で暑さ指数（WBGT）を把握せず、熱中症予防のための労働衛生教育を行っていなかった。また、「休ませて様子を見ていたところ様態が急変した」、「倒れているところを発見された」など、熱中症発症時・緊急時の措置が適切になされていませんでした。

※1 熱中症とは

高温多湿な環境下において、体内の水分と塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称。めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐（おうと）・倦怠（けんたい）感・虚脱感、意識障害・痙攣（けいれん）・手足の運動障害、高体温などの症状が現れる。

※2 暑熱順化の不足とは

暑熱環境下での作業に身体の体温調節や循環機能が慣れていないこと。入職直後や夏季休暇明けの者は暑熱順化の不足が疑われ、熱中症の発症リスクが高い。

※3 WBGT値とは

気温に加え、湿度、風速、輻射(放射)熱を考慮した暑熱環境によるストレスの評価を行う暑さの指数。

リーフレット「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」

資料1 令和5年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」実施要綱

資料2 「令和4年職場における熱中症による死傷災害の発生状況」(富山労働局)

資料3 「令和4年職場における熱中症による死傷災害の発生状況(令和5年1月13日時点速報値)」(厚生労働省)

参考 ポータルサイト「学ぼう！備えよう！職場の仲間を守ろう！職場における熱中症予防情報」 <https://neccyusho.mhlw.go.jp>